

受付日

一般成分	発酵品質 分析中	手分析 -
分析完了日		

分析No	
地区 依頼者	殿

粗飼料分析結果 報告書

品名		飼料 調整区分	(カット調製): (添加物):
(主な草種) (草種割合等)		刈取日	
(産地) 自家産	(刈取番草):	メモ	
(CS粉碎処理):			

一般成分

		説明 ※乾物中成分でみます	
水分		飼料中の水分含量。水分80%以上になると酪酸発酵しやすい。	
DM 乾物	%	水分を除いた飼料成分の総和(100%-水分%)	
CP 粗蛋白質	%	飼料中の粗蛋白含量。放牧草やマメ科に多い。	
粗蛋白質 分画	溶解性(SIP) %CP	ルーメンで早く分解される蛋白質。高水分で高くなる傾向。	
	分解性(RDP) %CP	ルーメンで分解される蛋白質。	
	非分解性(RUP) %CP	ルーメンで分解を受けずに下部消化管に流れる蛋白質。 バイパス蛋白。	
	結合(BP) %CP	ADFIに付着している蛋白質。消化器官では消化されず、糞中に排出される	
NEL	グラス Mcal/kg	産乳に使われるエネルギー 注1)	
	コーンサイレージ Mcal/kg	産乳に使われるエネルギー 注2)	
TDN(NRC2001年版)	%	家畜が消化利用できる養分の総量(エネルギー)。目標:61%以上 注3)	
粗脂肪 EE	%	中性脂肪など。エネルギー価が高い。刈り遅れると少なくなる。	
粗灰分 CAsh	%	ミネラル、微量元素。土などの異物混入により高くなる。 (目安8%以下)	
デンプン	%	コーンサイレージでは登熟の目安となる(黄熟期で30%以上)	
NFC	%	OCCの中の炭水化物。刈り遅れると少なくなる。 注4)	
ADF	%	セルロース+リグニン。消化性に影響(≒Ob)(目安:39%以下)	
NDF	%	飼料中の総繊維(≒OCW)(目安:65%以下)	
OCC 細胞内容物	%	細胞の中に含まれる養分でOCWを除いたもの(糖・デンプン・ 蛋白質・脂肪等)。消化性、栄養価が高い。早刈りは多くなる。	
繊維	OCW 粗繊維	%	飼料中の総繊維(≒NDF)。刈り遅れると多くなる(目安:66%以下)。
	Oa 高消化性繊維	%	OCW(総繊維)の内、消化されやすい部分(目安:6%以上)
	Ob 低消化性繊維	%	OCW(総繊維)の内、消化されにくい部分(目安:60%以下)
RFV 相対的粗飼料価		流通粗飼料(マメ科)の消化率と採食性を組合わせた評価法。 一般に100以上が良品質	

注1) NEL=(1.85-ADF×0.015)×2.2(DHI推定)

注2) NEL=(1.044-ADF×0.015)×2.2(DHI推定)

注3) 粗蛋白質×消化率+粗脂肪×消化率×2.25+粗繊維×消化率+可溶無窒素物(NFE)×消化率0.01

注4) NFC=100-灰分-NDF-((0.91×粗蛋白質-1.1)+粗脂肪)

注5) 酵素法推定TDN=5.45+0.89×(OCC+Oa)+0.45×OCW

ミネラル他

		説明 ※乾物中成分でみます
Ca カルシウム	%	骨の構成、筋肉の収縮、細胞内の情報伝達などに必要。
P リン	%	骨、核酸などを構成する成分のひとつ。
Mg マグネシウム	%	体内での酵素の活性化、神経伝達、骨の形成などの役割。
K カリ	%	陽イオンのミネラル。DCAD値(※1)を上げる成分。乾乳牛では 過剰摂取で乳熱などのリスクが高まる。
K/(Ca+Mg) 当量比		K/(Ca+Mg)。ミネラルのバランスをみる。2.2以上は注意。
微量ミネラル		
Na ナトリウム	%	陽イオンのミネラル。過剰摂取は血液のpHを高める。 DCAD値を上げる成分
Cl 塩素	%	陰イオンのミネラル。血液のpHを下げる。DCAD値を下げる成分。
S イオウ	%	陰イオンのミネラル。血液のpHを下げる。DCAD値を下げる成分。
Cu 銅	ppm	微量ミネラル。電子伝達、骨の形成、鉄の吸収・輸送、酸素代謝 産物からの細胞保護等に関連する各種酵素の構成要素。SやMo により吸収阻害されやすい。
Fe 鉄	ppm	微量ミネラル。ヘモグロビンの構成要素、酸素運搬、免疫応答 にも関連。
Zn 亜鉛	ppm	微量ミネラル。タンパクや核酸の代謝の他、黄体機能にも影響を 及ぼす。
Mn マンガン	ppm	微量ミネラル。発育成長、軟骨や骨の基質の産生に関与。繁殖 にも関係。
その他ミネラル		
Si ケイ素	%	
Al アルミニウム	%	
硝酸態窒素	ppm	堆肥や窒素過多などで高い値となる。植物の根元付近に多い。
ADFIP(ADF中の蛋白質)	%	ADFIに付着している蛋白質。消化器官では消化されず、糞中に排出される。
NDFIP(NDF中の蛋白質)	%	NDFに付着している蛋白質。ゆっくりと消化・吸収される。
ADL (リグニン)	%	繊維の中で最も消化されにくい部分。刈り遅れるほど多くなる。
酵素法推定 TDN		家畜が消化利用できる養分の総量(エネルギー)。注)5

※1 DCAD値:陽イオン、陰イオンの差。DCAD値が高いと乳熱などの要因となる。

meiji

分析責任者	
分析料金	

営業担当	
------	--

発酵品質

		説明 ※現物中成分でみます
pH		サイレージ品質判定の目安 目標:pH4.2以下(※2)
アンモニア態N	%	酪酸発酵等により蛋白質が分解され生成される。
アンモニア態N/全N	%	全窒素中のアンモニア態窒素の割合 目安:10%以下(※2)
酪酸	%	酪酸菌の代謝活動で生成される酸。 良質な発酵だと0.1%未満(※2)である。
乳酸	%	乳酸菌の代謝活動で生成される酸。ギ酸を添加したサイレージ では少ない。
酢酸	%	好気性発酵で生成される酸。高いと二次発酵のおそれ。
プロピオン酸	%	好気性発酵で生成される酸。一般に生成量は少ない。
V-SCORE (点)		サイレージの品質評価法で、酢酸・プロピオン酸・酪酸の割合と 総窒素に対する揮発性塩基態窒素割合から算出する。 目標80点以上。

※2 明治飼糧株式会社の報告書に記載されている目標値は<pH4.0、アンモニア態N/全<N6%、
酪酸 0となっています。

NRC参考値

蛋白質の分画		
PA 非蛋白態窒素 %CP		A分画:ルーメンで速く分解される蛋白質
PB 分解性蛋白質 %CP		B分画:ルーメンでゆっくり分画される蛋白質
PC 非分解性蛋白質 %CP		C分画:ルーメンで分解されず、下部消化管に流れる蛋白質
蛋白質の消化速度		
Kb PB %/h		B分画の消化速度
RUP消化率 %DM		下部消化管に流れたRUP(バイパス蛋白)の消化率

PAF(加工補正ファクター) 1.000 (最大が1.00) 穀類の加工度により補正する数値。大きくなるほど加工度が高い。
(コーンSの乾物率・破砕の有無により算出したNFC消化率の係数)

